

授業科目名	音楽科学	担当形態	講義		
		開講学期	秋学期		
担当教員	松波 匠太郎	単位	2	年次	1

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

近現代の西洋芸術音楽の歴史を概観し、アートとテクノロジーの関係について考察する。芸術と科学、双方の視点を通じ、音楽の現状を理解することを目標とする。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

西洋の音楽史の流れについての知識があると、授業が理解しやすいです。また、楽典の基礎知識を持っていることが望ましい。

### ＝授業の概要＝

20世紀以降の様々な作曲家の作品を見ることにより、その音楽語法と思想について学びます。

伝統音楽からポップス、種々BGMまで幅広く鑑賞します。授業で紹介した作品やサウンドは、復習として各自聴いてみることを望ましい。

### ＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス、印象派までの音楽史概説
- 2回 現代までの音楽的テキストの変遷とイズムの諸相
- 3回 音波の基本的性質、音楽における音響
- 4回 電気楽器、電子楽器
- 5回 ミュージックシンセサイザーについて
- 6回 音楽による感情と場の表現（1）——いくつかの性格的小品を例に
- 7回 音楽による感情と場の表現（2）——印象主義と表現主義
- 8回 サウンドデザイン、空間オーディオ（1）——DTMとプログラミング言語
- 9回 サウンドデザイン、空間オーディオ（2）——ポップスとゲーム音楽
- 10回 シュトックハウゼンと電子音楽
- 11回 コンピューター・ミュージック、ミュージック・コンクレート
- 12回 黛敏郎のキャンパノロジーとスペクトル学派
- 13回 ブレーズとライブ・エレクトロニクス
- 14回 アルゴリズム作曲、脳波音楽
- 15回 総括

**=テキスト（必携）=**

特になし。

**=参考書・参考資料（必携）=**

柴田南雄『西洋音楽史4 印象派以後』（音楽之友社）

**=成績評価の方法と評価の基準=**

出席状況と、レポートによる評価。

**=その他=**